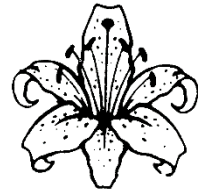




やまゆり



およそ1年間に渡って猛威を奮い続けている新型コロナウイルスですが、依然として終息の気配を見せておりません。英国や米国等海外の一部の国ではワクチン接種が開始されましたが、日本ではまだこれからといったところで、今暫くは慎重な対応が求められます。

令和2年(2020年)の年明け早々に中国で新型コロナウイルスの感染拡大が報じられ、それが瞬く間に世界各国へ飛び火しました。ボーイスカウト日本連盟・同神奈川連盟も、感染拡大に即して様々な対応を行って参りました。

それらの中から主なものを抽出して別紙一覧表に整理してみましたのでご覧ください。

新型コロナ禍中にあっても、ボーイスカウトの各団は「Scouting Never Stops」を合言葉に、それぞれ工夫を重ねて活動を続けています。

本号ではそうした活動の幾つかを、神奈川連盟6地区からそれぞれ報告して貰いました。

《川崎地区》

YouTubeで上進入隊式 川崎第43団

コロナ禍のなかで川崎第43団は隊ごとにオンラインの活動をしていましたが、7月より日本連盟のガイドラインに則って対面の活動を再開しました。そして夏キャンプのない8月を経て、9月の新年度、

上進入隊式をどう実施するかが大きな課題になりました。当団はスカウトが100名、団委員、リーダー、保護者を加えると180名を超える大所帯。3密を回避して式を実施できる場所はありません。団会議や団委員会での議論、検討を経てたどりついた結論は、今までにやったことのないYouTubeを使ったオンラインでの上進入隊式でした。多くの人が1カ所に集まらないように時間と場所を分け、事前に収

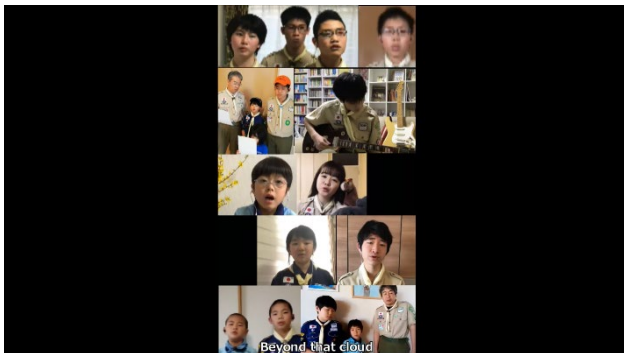


録した映像と当日の生配信を融合させるものです。式の前日の9月5日(土)、麻生市民館に隊ごとに時間をずらして上進スカウトが集まり、上進の誓いの式、そして団表彰を実施しました。その様子を撮影し、その日のうちに編集。翌6日(日)の当日は、育成会長、団委員長、副団委員長、一部の団委員と各隊隊長のみが市民館の会議室に集合し、10時にライブ配信がスタート。事前に団内だけにURLを告知する限定公開で、団委員長の挨拶から始まり、前日に収録した映像や新年度のリーダー、隊の編成などが紹介されました。オンライン配信ということで、団のOBである福田紀彦川崎市長にビデオ

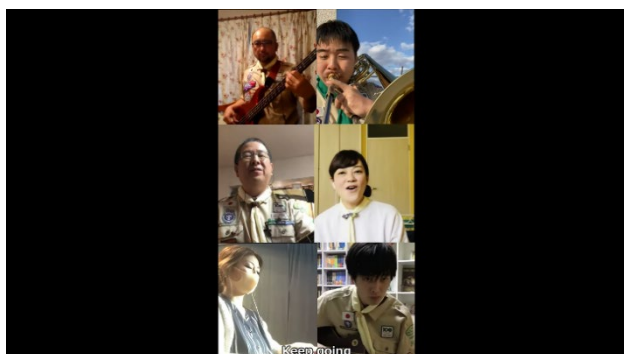
オでのご祝辞をお願いしたところ快諾してくださり、コロナ禍のスカウトたちへ励ましの言葉を頂戴しました。各ご家庭で視聴したスカウトと保護者からは好評をいただきました。(川崎第43団)

「米国ヘスカウトソングの贈りもの」川崎第54団

川崎地区では30年余に渡り、米国メリーランド州ボルチモア(川崎市の姉妹都市)地区とスカウトの交流派遣事業を続けています。今年は米国からスカウトを受け入れる番でしたが、残念ながら新型コロナウイルス感染拡大の関係で1年間延期することになりました。



この事業に、スカウト派遣・ゲストスカウトのホームステイ受け入れ等諸活動で中心メンバーとして関わっている川崎第54団では、各隊スカウトや指導者・団委員、それに保護者の方も参加してリレー方式で歌を繋ぎ1本の素敵な作品に仕上げました。その作品は地区国際委員会を通じてボルチモアの友人たちにプレゼントされました。贈った曲はスカウトソングの『どこまでも行こう』。どんな困難があつて



も挫けずに共に進んで行こうというメッセージを託したものでしょう。

参加者各自が自宅で歌ったり演奏したりしたものが、編集者の努力の甲斐あって、本当に見事な合唱・合奏になっています。YouTubeでご覧になれますので、是非アクセスしてみてください。

<https://www.youtube.com/watch?v=TThHvhC2rwU&feature=youtu.be>

(川崎地区 境 紳隆)

《横浜地区》

～Scouting Never Stops～

2月23日に日本連盟からの活動自粛要請が出され、7月まで自粛が続いた中、横浜地区各団ではそれぞれ工夫を凝らし ZOOM などのツールを使用し「おうちスカウティング」の活動に取り組んできました。上進式もほとんどの団がオンライン形式でおこないました。スカウトの活動は、BVS、CS は保護者の方の協力もあり、またスカウトたちも興味を持ち、オンラインでの隊活動はスムーズに実施されていた様ですが、BS ではロープワーク、手旗など技能伝達の際 PC ではなく、スマホを利用しているスカウトも多く、直接指導と違い、なかなか上手いかなかった様です。

隊活動のみならず団の運営に関しても育成会総会なども県連総会、地区総会と同様、書面や Web による議決方式で乗り切っていました。また団会議、団委員会の実施においてもほとんどの団が集合方式から、ZOOM を使った Web 会議方式に切り替えているのが現状です。

各団毎年恒例の夏キャンプは中止にせざるを得ない状況でしたが、8月からは各隊の活動が、新型コロナウイルス対策指針に則り再開されはじめました。

横浜地区としても「横浜地区 BS 地区ラリー2020」を9月13日(日)に実施しました。当地区は24個団(BS隊24個隊)216人(登録者数)のスカウトが在籍していますが、コロナ禍の影響か、例年に比べ参加率は低く全体の3分の1となる8個団(BS隊8隊)12班76名の参加に留まりました。コースは横浜市港北区東横線「菊名駅」と「大倉山駅」を出発点とし途中で合流、獅子ヶ谷市民の森、二ツ池経由で三ッ池公園をゴール地点とするラリー形式で行われましたが、市街地あり、住宅地あり、自



然豊かな森や市民の憩いの場である公園をめぐるバラエティに富んだ場所をめぐるコース設定で、スカウトたちは十分楽しめたと思います。

久々の地区活動で、運営サイドとしては、参加した各班が果たして集合地点まで来ることができるのか不安でしたが、久しぶりに集まった各団のスカウトたちは、ロープワーク、手旗、モールス、読図、クロスベアリングなど習得しているスカウト技能を精一杯駆使した対抗競技に生き生きとしているように感じました。各ポイントを担当した約30名の地区内の指導者たちも久々の地区を挙げての活動を楽しんでいました。



閉会セレモニーでの表彰式では、優勝した班だけではなく、上位になれなかった班にも笑顔が見られ、全員に渡された参加賞のトートバックを手にしたスカウトたちの顔は喜びにあふれていました。



(横浜地区 彦井文男)

〈みなと地区〉

コロナに負けないスカウティング

スカウトキャンプでアイデアコンペ

みなと地区では、本格的なキャンプ活動再開を前に、「スカウトらしい新しい生活様式スカウトキャンプ アイデアコンペ」を、7-8月に地区各団のボーイ隊を対象に行った。狙いは「どの様にしたら3密を避けたキャンプが提案できるか」。ソロテント部門、班サイト提案部門、保護者提案部門のうち、残念ながら応募はソロ部門だけだったが、最優秀賞には横浜96団ボーイ隊リス班の安西慶多スカウトからの提案が選ばれた。

コンペ提案の条件は、「自分たちでも作れる」、「最低でも2泊3日、若干の雨でも生活できる」テントで、イラストや配置図・材料などを示して提案し、実際に出来上がった写真の応募も受け付けた。

地区委員長、地区コミッショナーらの審査で、最優秀賞は「屋根とグランドシートの間隙がなく、雨、風がしのげる」などの評価を得て選ばれた(写真)。



96団によると、実際にブルーシートテント(リンツー)でのキャンプで設営した際にはさらに天井を高くする改善が行われ、降ってきた雨もしのぎていたという。(地区進歩委員会情報誌 Step by step より)

6月には隼・菊も誕生

おうちスカウティングが続いている中で、6月には

隼章、菊章の地区面接がオンラインで行われた。(写真参照)

= Step by step =

今年度神奈川連盟第1号の隼章スカウトが誕生!



隼章スカウトとなった横浜第65団の岸浪晴馬ベンチャースカウトは「移動キャンプやハイキングで、何かトラブルがあっても乗り越えられたのは、同期、後輩の存在が大きかった」と振り返った。8月には、さらに2人の菊スカウトが地区面接を終えている。(地区進歩委員会情報誌 Step by step より)

Zoom 会議中心に地区活動、毎月 RT も

みなと地区は、4月の新年度以降、ネット会議システムの Zoom を導入。地区委員会や各種委員会活動、ラウンドテーブル、研修会など、30余りの会議室が設定され、週に何度も打ち合わせなどが行われている。場所の制約がなくなり、少しの時間でも参加できるため、打ち合わせの質も向上。コミグループがサポートするラウンドテーブルは、部門ごとにほぼ毎月、開催されており、コロナ禍でのスカウティングの現状について、情報交換が図られている。

また、Facebook で各団が発信している活動報告を、地区の Facebook アカウントでシェアすることで、各団の活動の工夫が一覧して見ることができ、対外的な PR だけでなく、それぞれの部門で活動の参考になる発信が行われるようになっている。

(みなと地区広報・中川)

◀湘南地区▶

新型コロナウイルス禍中のスカウティング 新しいスカウティングの紹介等

[地区コミッショナーの対応]

湘南地区では、日本連盟の「新型コロナウイルス対策について」、神奈川連盟の「神奈川連盟の新型コロナウイルス対応について」という文書(指示書)に対応する形で、地区独自の「新型コロナウイルス対応について」という文書が地区コミッショナー一名で地区内の指導者全員に電子メールで配信されています。最初の発信は2月24日で、状況の推移に応じて次々と発信され、9月27日時点で第17報までが配信されています。主な内容は、日本連盟、神奈川連盟からの文書の確認ですが、地域性を考慮した独自の指示も含まれています。特に、6月1日からの段階的な学校再開を受け、徐々に対面式の集会も再開できる条件が整った後は、「活動計画作成時のチェックリスト(新型コロナウイルス対応)」というチェック項目が記載されたエクセルシート(ファイル名は「隊活動チェックシート(新型コロナウイルス対応).xlsx」)が各隊に配布され、活動計画の際に隊長が各項目をチェックし、団委員長が確認する運用が行われています。

[自粛期間中の各隊の活動]

地区内には多くの隊があるため一括りにはできないのですが、早い段階から「(対面式集会ができない。)≠(活動ができない。)」という共通認識のもと、各団・隊で工夫して活動を行っていました。初期の頃(概ね4月初旬頃まで)は、隊指導者から在宅中のスカウトに、自宅でできる課題(ハンドブックを読む。ロープを自習する。)等や、ボーイスカウトに関わるYouTubeなどのWebコンテンツの視聴などが行われるとともに、電話、LINE、メール等を用いて、保護者、スカウトへの声がけが行われました。

その後、Zoom、WebEx、日連提供のGoogle Meet 環境などに、スカウト、保護者が慣れてくるようになり、オンライン集会在行われるようになりました。BVS 隊では、単にオンラインでつながって皆で会話ができるというだけでは不十分と考え、指導者の手作りのゲームや工作キットなどを、スカウト宅に郵送し、それを用いて、オンラインでつながった状態で、各家庭でゲームを行うなどの取り組みを行った隊もありました。

[自粛期間後の各隊の活動]

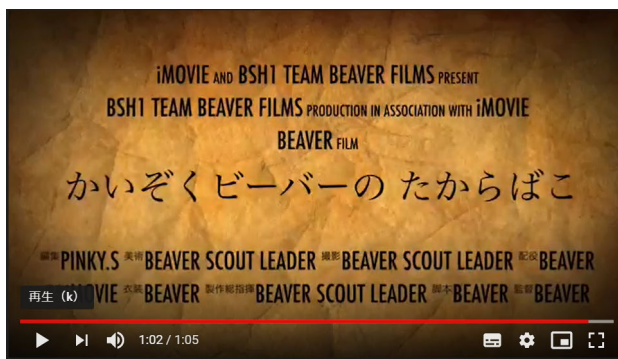
自粛期間終了後も、各隊ではスカウトの安全を第1に、地区内各自治体の情勢を見ながら慎重に活動を進めました。特に、第2波に関する報道を注視し、しばらくはオンライン集会を継続あるいは併用した隊が多かったものと思われます。7月以降、本格的に再開した対面式集会においては、前述の活動計画作成時のチェックリストの要件を満たした上、更に、団レベルで地域の事情、保護者の意見を踏まえて活動を行っています。安全対策の詳細化・厳格化は、スカウト活動の楽しさを損なう懸念があるため、各隊の指導者は知恵を絞って、安全対策をゲーム的に楽しく行うなどの工夫を凝らしました。



鎌倉第2団のBVS隊、CS隊の対面式集会再開
(7月5日)の様子
(鎌倉第2団 Instagram より転載。)

[地区行事]

例年実施している湘南地区ビーバーフェスティバル、くまスカウトキャンプなどの大きな地区行事は、残念ながら中止となりました。11月3日に開催される湘南地区スカウトラリーについては、会場を分散し、オンラインでつなぐ形式として開催することとしています。開催案内には、ある隊で実施した活動予告ビデオを参考に、プロモーションビデオを制作



葉山第1団 BVS 隊活動予告ビデオのエンディング(公開版 YouTube))

し公開することになりました。このように、新型コロナウイルス対応の中で、ネットワークを用いたコミュニケーションや動画配信等のスキルが底上げされ、日常の道具としての活用が進みつつあるようです。

(湘南地区 足立和郎)

《県央地区》Scouting Never Stops

今年度は世界的に猛威を振るっている新型コロナウイルスにより緊急事態宣言が発出され、学校の臨時休校や外出自粛等厳しい生活を余儀なくされました。

ボーイスカウト活動も外での活動が自粛となりましたが、各団、隊で工夫してボーイスカウトに関わる Web コンテンツの視聴や電話、LINE、メール等を用いて保護者、スカウトとつながり、団内の活動を団通信などで共有していました。オンライン集会については、家庭の通信環境などを保護者に確認して日連提供の Google Meet などを用いてオンライン集会が行われるようになり、例年と異なる新しい対応をしていた地区内の活動状況を紹介します

オンライン入隊式

大和第5団ボーイ隊に4名のスカウトが誕生しました。みな、ちかいを立てるのを心待ちに、そして制服を着るのを楽しみにしていたようで、例年のようにリハーサルができなかったのですが、堂々とちかいを立てることができました。ボーイスカウトとして、一緒に頑張っていきましょう。大袈裟かもしれませんが、オンライン上での式は史上初の試みです。



信仰奨励章講習会

相模原第7団ローバー隊の折本隊長(福蔵院住職)にお願いして、オンラインでお寺からの実況中継にて講習会を開催しました。



ビーバーの#おうちスカウティング

相模原第10団では、「ピンホールで遊ぼう！」リモート活動で制作したピンホールを使って自宅庭で太陽の光を観察してみた！日食をピンホールで見る予定でしたが、あいにくの曇りでした。写真は、太陽が出ているときに、ピンホールを使って太陽の光を観察した際のビックリした様子です！



BS 救急法講習会

地区開催の集合研修用【感染予防策】として、2週間前からの健康状態などを記入した健康管理票を提出し、更に会場入り口で全員の体温を測定。講習会中のマスク着用は必須。1時間ごとに



会場の換気を実施し、実技講習時や休憩終了毎に必ず手指のアルコール消毒を実施。人と人が触れ合う実技講習は一切行わず、右写真のようなダミー人形(100均の材料を中心に1体1,000円程度の材料費)を3体作製し、この人形に対して三角巾や固定法などの実技にトライ。人形の頭と両手・両足は、バラバラに分離できるので、パーツ毎に距離を置いて同時に複数人が実技練習を実施。スカウトは人形にイチローなどと命名し、救護にあたりました。

神奈川スカウト DAY



海老名では、赤い羽根募金、国分寺史跡の草刈り奉仕などの活動を行いました。募金はフェイス

シールドを着用、ソーシャルディスタンスをとっての対応でしたが、多くの方の温かい行いに感謝致します。募金の後にはおたのしみの活動を行い、解散しました。

地区ラリー テーマ: Scouting Never Stops !!



県央地区では、11月3日に「近隣5市のスカウトが集まり、交流を深め、競技することでスカウティングの楽しさを実感する。」として、BVS～

BS部門まで一堂に会して地区ラリーを実施しています。

今年は部門・地域別に分散開催。CSは会場を海老名運動公園と相模川自然の村公園、BVSとBSは泉の森公園で別日程にて開催しました。

スカウト運動の広報活動には厳しい環境ですが、スカウトは日本連盟や団内のガイドラインに沿って新型コロナ感染対策を行い、指定された時間に参加、実施となりました。

オンラインリモートでの表彰発表などあたらしい活動での地区ラリーです。

《西湘地区》

「新型コロナ禍における工夫された活動」

団ファミリーデー～8月9日(日) 船原キャンプ場

小田原第2団

予定していた団のサマーキャンプが実施できなかったため、ファミリーデーを実施しました。感染防止に留意しながら、保護者も含めた縦割りのグループを編成して、森と川のフィールドを生かしたラリーを実施。BS隊は前日からリンツで1泊キャンプを実施しました。参加者たちは自然の中で日常を忘れて楽しみました。



『ひら 4 サマープログラム』

平塚第4団 齋藤万里子・齋藤歩

平塚第4団では、毎年恒例の夏の野舎営を残念ながら行うことができませんでした。コロナ禍でも、どのような活動ならば可能なのか、どのような備えをすればスカウト・保護者に安心して活動に参加してもらえるのか、7月の活動再開にあたり手探りの取り組みが続いてきました。

こうした中で、スカウトたちが楽しみにしている夏休み期間が2週間に短縮されたこと、平塚名物の七夕祭りや花火大会、地域のお祭りも中止となってしまったことを受け、少しでもスカウトたちの思い出となる集会を開催しようと、それぞれの隊が夏の集会「ひら 4 サマープログラム」を企画・計画しました。

『風船はりこでランタンファイヤー』 ビーバー隊

コロナウイルスにより活動自粛をされていた中で、ビーバー隊は「おうちスカウティング」の取り組みで『風船はりこランタン作り』を行いました。

膨らませた風船に、半紙を糊で貼り、模様を貼り付けました。半紙が濁き、風船の弾力性がなくなってきたら、風船の空気を抜き出します。

8月最後の日曜日、夕方から隊集会を開きました。この日の活動は、ランタンツリーの共同製作とランタンツリーを囲んでのランタンファイヤーです。

はじめに、ランタンを置く枝を段ボールと折り紙を使い、各自で製作しました。スカウト各自の枝を、段ボールで作製した幹に差しました。その後、折り



紙でセミやクワガタを折り、貼り付け、ツリーの完成です。

各自の「風船ランタン」にライトを灯し、ランタンファイヤーの始まりです。いつものキャンプファイヤーのようにはいきませんが、限られた条件の中で楽しめるゲームを楽しみ、短い夏休みの思い出作りになったことと思います。

ランタンファイヤーには、保護者の方々にもご参加いただきました。この『風船はりこランタンツリー』は、翌週スカウト会館に運び、「青少年 少年少女作品展」に共同製作として出品しました。「おうちスカウティング」の取り組みと、実際に共同で活動する隊集会のよさを合わせたプログラムになったと思います。

『夏祭り』 カブ隊・ボーイ隊・ベンチャー隊

「いつもお世話になっています。子供達は、帰りの車でも家でも、すごーく楽しかった(^-^)美味しかった(^-^)&喜んでおりました。カブ隊の三男はイルカのフィギュアをたくさん並べて喜んでいました。二男も、ビーフシチューが余程美味しかったみたいで、また食べたいと言っていました。皆さまありがとうございました。」

8月末のカブ隊・ボーイ隊・ベンチャー隊の夏の合同集会を終えた後、保護者から届いたメッセージです。この日のために準備をしてきた指導者一同、疲れも吹き飛びました。

密を避けられる屋外、かつ熱中症対策も考慮した夕方から夜間時間帯を条件に、会場は「平塚市びわ青少年の家」としました。当日は、ベンチャー隊・ボーイ隊は野外炊事訓練、カブ隊は会場周辺のワイドゲームをしながら、久しぶりの屋外での活動を楽しみました。

ボーイ隊・カブ隊は、7月に入隊・上進式をして活

動を再開したものの、班・組として屋外で仲間と一緒に体を思いきり動かすのは今年度初めて。多少ぎこちないかなど、指導者が思っていたのははじめだけ、次第に班・組でのチームワークを発揮し始めるスカウトたち。ボーイ隊・ベンチャー隊は事前に準備してきた献立を手際よく作っていました。火の扱いや効率の良い調理については、まだまだ訓練が必要なようですが、新グリーンバースカウトを中心に、新入スカウトも物怖じせずに取り組んでいたようで、指導者は一安心でした。炎天下のもとでしたが、カブ隊は新しい仲間と一緒にコマ地図をもとにして、元気よく会場周辺を駆け回っていました。

ベンチャー隊はミートケーキ、ボーイ隊はチーズインハンバーグとビーフシチューをそれぞれ班ごとに味わい、カブ隊は指導者が汗いっぱいになって焼き上げた焼きそばとフランクフルトの「ザ・縁日メニュー」を満喫していました。



食後は3隊合同の「夏祭り」。この日のために平塚市内各所から資材・材料をかき集めてきました。内

容も「夏祭り」らしく、冷やしパイナップル・かき氷・スーパーボールすくい・くじ引き・輪投げと盛りだくさんでした。指導者たちが集めてきた「プロ仕様」のグッズは、いずれも大人気。大盛況の中、お開きとなりました。

集合時は明るかったのに、解散時にはもう闇に包まれていました。解散のセレモニーの最中には、夏の終わりを告げるような涼しい風も吹いてきました。まだまだ解散するのを名残惜しむように、お迎えの保護者が来てもなかなか帰られないスカウトたち。



スカウトはもちろん、指導者も久しぶりのスカウト活動にあたり、準備から実施・片付けまで忙しい中にも楽しむことができました。これからもコロナとともに新しいスカウティングの在り方を考え、実行していこうと思います。

地区・県のスカウト、指導者の皆さんと一緒に活動できることを待ちわびています。コロナ禍でもできる、スカウトたちが楽しめるスカウト活動で是非交流していきたいと願っています。

半年ぶりの活動で12名上進 秦野第1団

我々秦野第1団は、8月29日(土)に白笹稲荷神社に於いて、「上進式・納涼祭」を開催致しました。



例年4月第1(日)曜日午前中に開催される上進式は、2月21日に発令された「新型コロナウイルス感染症の対応」に基づき、我が団に於いては7月31日

までの5ヶ月間すべての活動を中止又は延期とし、この日は6ヶ月ぶりの団活動再開となりました。

「新型コロナウイルス感染拡大予防」と「熱中症対策」により、午後5時から始まった「上進式」では、ビーバー隊より1名、カブ隊より3名、ボーイ隊より7名、ベンチャー隊より1名の計12名のスカウトが上進致しました。

我が団では2年に1度「団キャンプ」を開催しておりますが、団キャンプの無い年の8月の終わりに「団納涼祭」を開催しております。



午後6時、納涼祭が始まりました。団委員により用意された夕食のピザ・フランクフルト・ポップコーン・チューペット・ジュースでスカウトらはお腹を膨らませると、休憩する間もなく、オモチャ金魚すくい・ヨーヨー釣り・空気鉄砲射的で盛り上がりました。最後には、「白笹の森」の夕闇の中、スカウトらがエ



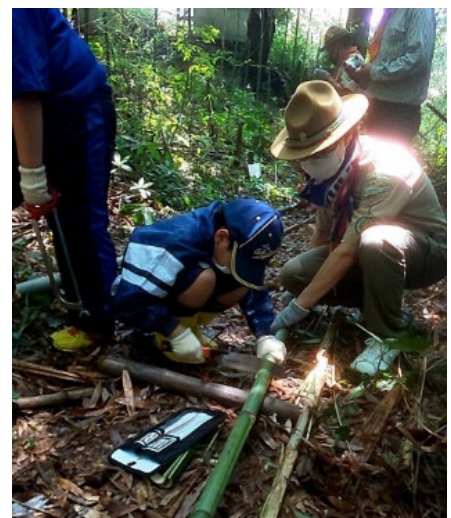
作した「紙コップ灯籠」を囲い、例年には無い幻想的な雰囲気の中、ゲーム・夜話で8月最後のひと時を楽しみました。



今年の夏のキーワードは『竹』 大井第1団

秦野市・小田原市・南足柄市に囲まれた“足柄上郡”の中で、数少ないボーイスカウトがある町、大井町。大井第1団は、ほどよい自然に恵まれた環境の中、楽しくマイペースでスカウト活動をしています。R2年現在、BVS2名、CS7名、BS1名、VS2名。大所帯とは言えませんが個性豊かでエネルギーギッシュなスカウト達が揃っています。

今期夏の活動におけるキーワードは『竹』でした。7月19日、町を通るJR御殿場線を一駅分歩き、たどり着いた団関係者所



有の竹林で青竹を切り出し、恐る恐るノコギリで切り揃える。8月2日、ロープ練習の傍らで、余った竹の残材で水鉄砲を作製。8月23日、南足柄第1団



と合同で山北町の丹沢湖奥でデイキャンプ。竹の水鉄砲を持参した川遊びで、なぜか巨大なカエルを捕まえ大はしゃぎするビーバーとカブ。ボーイは黙々と竹材で立ち籠の製作にトライ。感染症の不安をよそに元気に活動を続けています。



【神奈川連盟主催 隊・団運営者の集い】

「隊・団運営者の集い」が2020年11月28日(日)13:30～15:30にかけてオンラインで開催され、約60名の方が参加されました。

今年度の「隊・団運営者の集い」は、新型コロナウイルス禍中であっても、工夫をしながらスカウト活動を続けよう(Scouting Never Stops)と「おうちスカウティング」を主導された、ボーイスカウト日本連盟プログラム委員会・榊原委員長にご自宅からオンラインでご参加いただき、『全国の参考事例』を紹介いただくと共に、新型コロナウイルス禍中の『進歩に関する特別措置』の考え方についてご説明戴きました。

『全国の参考事例』では先ず、

1. 埼玉県連盟東松山第1団カブ隊の新チャレンジ章『STEM 博士』の実施報告をご紹介戴きました。

「STEM」とは、Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Mathematics(数学)の教育分野を総称する語で、東松山第1団ではこれを3回の集会に分けて実施しています。

1回目の集会では、①地球は磁石、②すつとビー玉、③不思議なビーズ、④近未来飛行機の実験を行い、2回目の集会では屋外にザリガニ釣りに出かけ、3回目の集会では、⑤ペットボトル「燃料電池」、⑥ストローウェーブマシン、⑦雪降る小瓶、⑧不思議な魚という実験を、いずれも密にならないようローテーション方式で実施したことが報告されました。引き続いて、

2. 新型コロナ禍中において大規模な野営大会が開催できないことに対する危機感から、「このような状況下でどのようにしたら野営大会を開催できるのか」検討された、愛知連盟尾張東地区の挑戦についてご紹介戴きました。

【編集後記】

今号では、新型コロナ禍でも頑張る各地区各団の活動を中心にお届けしました。当初は秋の発行を予定していましたが、新任編集人のPCスキル不足で遅くなってしまいました。ご容赦ください。

次号は年度末に間に合わせるよう頑張ります。メインテーマは「わくわく自然体験あそび」です。お楽しみに。

=====

日本ボーイスカウト神奈川連盟 広報紙『やまゆり』
発行 令和3年(2021年)2月4日
発行人 日本ボーイスカウト神奈川連盟理事長 藤本欣司
編集人 神奈川連盟組織戦略委員会 委員長 境 紳隆